

令和3年度第1回仙台市廃棄物対策審議会 議事録

- 日 時 令和3年7月2日(金) 10:00～12:00
- 場 所 T K P ガーデンシティ仙台 ホール 30 B
- 出席委員 久田真会長、松八重一代副会長、安住浩一委員、遠藤智栄委員、大原敦子委員、笠原建委員、齋藤敦子委員、齋藤優子委員、菅原博委員、鈴木公至委員、多田千佳委員、千田恵委員、長友淳恭委員、中山隆治委員(代理出席)、西澤啓文委員、沼田隆委員、橋本啓一委員、藤田祐子委員、山田政彦委員、吉田美緒委員 以上 20 名(委員定数 20 名)
- 事務局 環境局長、環境局次長、環境部長、廃棄物事業部長、施設部長、総務課長、廃棄物企画課長、家庭ごみ減量課長、事業ごみ減量課長、事業ごみ減量課指導担当課長、施設課長
- 傍 聴 人 0 名
- 次 第 1 開会  
2 議事・報告事項  
(1) 一般廃棄物処理基本計画(平成23年度～令和2年度)に係る目標の達成状況等について  
(2) 一般廃棄物処理基本計画に基づく令和3年度の主な取り組みについて  
(3) その他  
3 閉会

議事要旨

発言者	議事要旨
久田会長	<p>次第2 議事・報告事項(1) 一般廃棄物処理基本計画(平成23年度～令和2年度)に係る目標の達成状況等について、事務局より説明をお願いする。</p>
廃棄物企画課長	<p>&lt;資料1に基づき説明&gt;</p>
橋本委員	<p>令和2年度は、コロナ禍で在宅時間が増えたことで、家庭ごみ排出量が増加に転じたことは理解したが、増加の要因として世帯のうちどのような方の在宅時間がどの程度増えたのか、また、家庭ごみの組成はどのように変わったのか、分析はしているのか。</p>
廃棄物企画課長	<p>家庭ごみの組成については、毎月1回清掃工場において家庭ごみを抽出し、調査を行っているが、コロナ禍でどのように変化しているかまでの分析には至っていない。引き続き組成調査を実施する中で、コロナによる影響についても分析等を行ってまいりたい。</p>
橋本委員	<p>コロナ禍で私たちの生活にも大きな変化が生じたわけだが、もう少し多角的な評価が必要なのではないか。</p> <p>例えば、本市人口については、平成26年度から令和2年度にかけて増え続けているが、これは他県・市区町村からの転入者なのか、外国人なのか。また、世代や世帯構成の視点から見える排出傾向の調査も必要である。</p> <p>さらに、そのような視点で分析すると家庭ごみの組成に対する見方が理解しやすくなると思われるし、これまでと違うリサイクル率に対する捉え方も考えていく必要がある。</p>
環境局長	<p>1点目について、平成26年度から令和2年度までの人口動態を見ると、ベトナム、ネパールといった海外からの居住者が相当数増えており、生活慣習が違う中で、ごみの分別ルールや排出マナーについての周知徹底が1つの課題であると捉えている。</p> <p>また、コロナ禍の影響によるごみの排出傾向については、組成調査上は排出者の特徴までは分析できないが、生活ごみの内訳を見ると、在宅時間が増えたことで、ペットボトルなど在宅に関連するごみの排出が増加している。生活ごみ全体としては、令和2年4月から6月頃は対前年度に比べて10%以上増加したが、それ以降は徐々に落ち着き、結果的にはそれほどの増加には至らなかった。今年度</p>

<p>廃棄物企画課長</p>	<p>は、昨年度の4月、5月に比べて減少しており、排出状況は例年と同等に戻ってきている。</p> <p>2点目の家庭ごみの組成に対する見方については、ご指摘を踏まえ、データの解析等を行ってまいりたい。</p>
<p>橋本委員</p>	<p>本市の人口動態について把握し、世代や世帯構成などを踏まえ、実情に合った取り組み方を進めていただきたい。このような視点で取り組んでいる他市町村も一部にあると確認しており、新たな一般廃棄物処理基本計画が効果的に進むよう取り組んでいただきたい。</p> <p>一方、事業ごみについては、飲食店の排出量が減少したが、逆にコロナ禍の影響で事業が盛んになった事業者もいる。例えば、スーパー、コンビニ、家電量販店等は、ごみ排出量は間違いなく増えているはずである。このような事業ごみは残念ながら分別されずに排出されているところがあると思うが、その組成について分析を加えても良いのではないか。</p>
<p>廃棄物企画課長</p>	<p>事業ごみの組成調査については、5年に1回の一般廃棄物排出実態等調査で実施している。</p> <p>また、適正排出指導については、清掃工場で展開検査を実施しており、不適正な排出事業者を特定した場合は、訪問指導等を進めている。</p>
<p>久田会長</p>	<p>ただいまの議論は、ごみ排出量の推移とごみの組成についての2つの論点があった。家庭ごみの組成を見ると、資源物の混入割合が平成26年度は48.1%であったのに対し、令和2年度は41.3%と減少しているが、これが有意な変化であるのか、もしくはコロナ禍の影響によるものなのか見極めることが重要だと思う。ワクチン接種が進み、平常な状態に戻った場合に、もし数値が戻れば、これは一過性のものだろうという見方をする必要もあるかもしれないが、これが令和3年度、令和4年度と続くようであれば、これからはその値を基準にして進めることが重要になると思う。少しもどかしいが、今年度と来年度の実績を見て判断せざるを得ない。</p>
<p>久田会長</p>	<p>次に、議事・報告事項(2)の、一般廃棄物処理基本計画に基づく令和3年度の主な取り組みについて、事務局より説明をお願いする。</p>
<p>廃棄物企画課長</p>	<p>&lt;資料2に基づき説明&gt;</p>

<p>松八重副会長</p>	<p>基本方針2の分かりやすい情報発信と行動する人づくりで、アプリやTwitterで発信するなど、様々な世代にあった取り組みであると思う一方、発信するツールや技術の移り変わりは大変激しい。例えば、最近の若い人は、あまりFacebookやTwitterを使っておらず、どちらかといえば中高年層の方が使用している傾向にある。市の担当者がずっと張り付いているわけにもいかないため、なかなか時勢にあった情報発信は困難だと思うが、どのようにお考えか聞かせていただきたい。</p>
<p>廃棄物事業部長</p>	<p>本市では、現在、Twitterを使用して情報発信を行っているが、ご指摘のとおり、TikTokやInstagramなど、世代によって使用しているツールが異なることは承知している。</p> <p>一昨年前に大学生との意見交換の場で話を聞いたところ、確かにInstagramを使うことは多いが、身内でシェアをする上で便利だが、拡散性といった意味ではTwitterも若い方にまだ使われている印象を持った。</p> <p>もう一点、発信をしていくにあたって、インターネット全体に言えることだが、発信し続けないと見てもらえなくなるという課題がある。この辺りは行政にとって弱いところであり、発信にあたり内部のチェックを経ることやマンパワーの限界もある中で、様々な情報を見つつ逐一反応することは困難である。</p> <p>しかしながら、Webを通じた発信というのはますます重要性が増していると認識している。市政全般の取り組みとなるが、今月からは新たにチャットボットによる案内を試行しており、今後も様々なツールについて、できるだけ良いものを活用しながら、取り組みを進めてまいりたい。</p>
<p>松八重副会長</p>	<p>TwitterやYouTubeなどで「バズる」という言葉があるが、これらのツールを通じて発信することで、視聴者もカウントできたりするので、ある程度効果も見える。今は、農水省も結構活発に職員が発信しているし、都庁でもYouTuberと一緒に発信していたり、宮城県でも知事がYouTuberと一緒に発信をしていることもあり、外部の方と連携して発信するのもひとつ有り得ると思う。</p> <p>また、日本語だけではなく特に外国人への発信という中で、検索キーワードに引っかかるというのも重要な広報手法の一つだと思うので、伝えたい情報を閲覧いただく工夫もお願いしたい。</p>
<p>久田会長</p>	<p>情報発信については、廃棄物対策だけではなく、仙台市として色んなものを発信していく必要があるかと思うので、市役所内での部署連携も視野に入れて進めていただきたい。</p>

多田委員	<p>スライド 13、14 の生活ごみの分別推進では、「紙類等」となっているが、実際は布類も集めている。先ほどの資料 1 で、令和 2 年度の家庭ごみ組成では、布類が結構多く混入しているので、きちんと布類も分別を推進していることがわかるように記載した方が良いと思う。</p>
廃棄物企画課長	<p>ご指摘のとおり、令和 2 年度の家庭ごみの組成では、布類の混入割合が平成 26 年度に比べて高くなっている。こちらの資料 2 には布類について明記していなかったが、引き続き布類の分別・リサイクルを進めてまいりたい。</p>
橋本委員	<p>6 月 11 日にプラスチック資源循環促進法が公布され、遅くとも 2022 年度には施行される予定である。できるだけ早めに周知し、市民や事業者の方々に理解してもらうことが大切であるが、この法律についてどの程度把握しているか確認したい。</p> <p>また、製品プラスチックの一括回収については、昨年 11 月に錦ヶ丘で実証事業を行っており、8 割の方からプラスチックごみの捨て方が分かりやすくなったと回答をいただいている一方で、リサイクルする手法の確立とコストの抑制といった課題が見えてきたとのことだが、仙台市として独自に何か取り組みを進める予定はあるのか。</p>
廃棄物企画課長	<p>はじめにプラスチック資源循環促進法の概要だが、プラスチック製品について設計・製造、販売・提供、使用後の回収リサイクルのそれぞれの段階で減量・リサイクルに向けた取り組みを促進するものと理解している。</p> <p>例えば、設計の段階で言えば、事業者がリサイクルしやすい代替素材を採用するなど、環境に配慮した商品の設計製造をするよう国が指針を作成し、認定制度を創設する。</p> <p>販売・提供の段階では、使い捨てプラスチックの使用抑制を目的とし、無料提供されているスプーン・フォークの有料化や、紙などの代替素材への転換を促していくものである。</p> <p>回収・リサイクルの段階では、事業者による自主回収を推進するとともに、市町村による製品プラスチックの分別収集・リサイクルする制度が設けられるものである。</p> <p>事業者との連携としては、先ほどスライド 6 でご説明したとおり、使い捨てプラスチックの使用抑制について、取り組みを進めてまいりたい。また、製品プラスチックの一括回収については、昨年度錦ヶ丘地区で 1 か月という短期間で実証事業を実施したが、今年度については各区 1 か所ずつ、期間についても延べ 9 か月に拡充し</p>

<p>廃棄物事業部長</p>	<p>て実施する。昨年度の実証事業で見えてきた課題について、今年度の実証事業でさらに検証してまいりたい。</p> <p>実証事業を通しての本市としてどのように取り組み、工夫をするかという点について補足申し上げる。</p> <p>製品プラスチックは、容器包装と比べて形状や素材が多種多様であるため、どうしてもリサイクルに係るコストがかかってしまう。現在、コストの削減について、リサイクル事業者とともに手法を検討しており、今年度の実証事業を通じて目途をつけたいと考えている。</p>
<p>橋本委員</p>	<p>「資源とごみの出し方・分け方」の全面改訂について、今年の10月には全世帯に配布とあるが、できるだけ早く周知し、発信していくことが大切だ。カラーで見やすいルールブックであり、全世帯に配布するのは良いが、インターネットの普及で雑誌や新聞が減少していることから、できればSNSや市のホームページでも早めに発信してみてはどうか。様々な世代の方に効果的にお知らせしていくことが大切だと思う。</p>
<p>廃棄物事業部長</p>	<p>「資源とごみの出し方・分け方」については、5年振りの全面改訂ということで、より分かりやすく、時代に沿った表現とするなど、改訂作業を進めている。</p> <p>また、情報発信のあり方についても、Webによる配信の割合が高まっていることから、ワケルネットのリニューアルも予定している。</p> <p>「資源とごみの出し方・分け方」については、同じ内容のものをWebで発信したいと考えており、作業の進行状況にもよるが、できるものから早く発信することについても検討してまいりたい。</p>
<p>橋本委員</p>	<p>資料2は、新たな一般廃棄物処理基本計画に基づく令和3年度の取り組みについてまとめたものであり、新規事業や重点事業と表記しているが、令和3年度は、特にこの施策をしっかりと取り組んでいくということが伝わるようなわかりやすさがあると良かったと思うがいかがか。</p>
<p>廃棄物事業部長</p>	<p>資料2については、新たな一般廃棄物処理基本計画に基づく施策全体について説明するため、今年度新たに組み込むものに加え、これまで進めてきた取り組みも含め、網羅的にまとめている。</p> <p>ご指摘のとおり全体像は見えるが、仙台市がどのようなことに重点的に取り組んでいくのかが分かりにくい資料になってしまった</p>

<p>環境局長</p>	<p>ことは認識している。今後、具体的な取り組みを進めていくにあたり、今、何を重点的に取り組んでいるのか、市民の皆様きちんとわかりやすく説明することが重要と考えており、その点を注意しながら発信してまいりたい。</p> <p>補足をさせていただくと、この計画では、発生抑制が重要と位置づけており、特にプラスチックごみと食品ロスの削減が世界的に喫緊の課題となる中で、本市においても家庭ごみの中にプラスチックや食品ロスをはじめとした生ごみが相当な割合を占めていることから、当面はこの2つについて発生抑制に取り組むことで、ごみの排出量を減らし、かつ、リサイクルも促進されるよう、力を入れて取り組んでいきたいと考えている。</p>
<p>齋藤優子委員</p>	<p>今年度は、今後10年間にわたる一般廃棄物処理基本計画の初年度ということで、ある程度方向性を決める非常に重要な年であると認識している。</p> <p>この計画では、基本方針の一つとして行動する人づくりを掲げ、実際にごみを減らしていくプレーヤーは、市民や事業者であるということを前面に出した計画になっており、人づくりに関しては、多層的な取り組みや仕掛けをたくさん作っていただきたいと考えている。令和12年度までにごみ総量を12%削減するという全国的に見ても非常にチャレンジングな目標と考えており、そこに到達するには、他部局と連携して多層的な取り組みをぜひお願いしたい。例えば、環境局の所管ではないと思うが、新型コロナウイルス感染症の流行が収束した後のイベントやお祭りなどに関りをもち、行動する人づくりに資する仕掛けを作っていただければと思う。</p> <p>また、カーボンニュートラルは世界的な潮流になっているので、今後、脱炭素政策との関りが避けられないと考える。</p> <p>さらに、日本では個別リサイクル法の枠内でのリサイクルが進んでいるが、全体最適化を視野に入れつつ、プラスチックをはじめ、ごみ削減・リサイクルの取り組みを進める必要があると思う。</p>
<p>廃棄物事業部長</p>	<p>現在は、コロナ禍でイベントの実施が難しい状況となっているが、環境意識を高めるイベントとしては、毎年エコフェスタを開催しているほか、市全体では区民祭りやPTAフェスティバルなど親子参加型のイベントも行っている。参加者に応じた内容・コンテンツを工夫しながら環境局としても積極的に参加していただくことは非常に重要と考えており、再開の折には啓発や周知の場として活用してまいりたい。</p> <p>また、様々な分野でのリサイクルが進められているところだが、</p>

	<p>環境局では、一般廃棄物処理基本計画のもと、特に食品ロス削減とプラスチック資源循環に関する施策を進めることで、カーボンニュートラルにつながるよう努めてまいりたい。</p>
多田委員	<p>環境教育の点で、令和3年度も新型コロナウイルス感染症の流行が収らない中で、施設見学バスの利用者や小学生の見学による環境学習は困難な状況だと思うが、動画コンテンツなど教室でも学習できるようなツールがあると良いと思う。</p>
施設部長	<p>毎年、小学校4年生が清掃工場に見学に来ているが、コロナ禍で見学が減少している状況を受け、令和2年度に、松森工場で見学者用DVDを新たに作成しており、見学に来ることができない学校に配布し、活用いただいている。</p>
環境局長	<p>このDVDは松森工場の職員の提案で作成したもので、普段の見学ルートからは見ることでできないところも撮影するなどの工夫もしている。学校からの要望に応じて配布しており、非常に好評を得ている。</p>
多田委員	<p>DVDを作成し、配布していることは素晴らしいと思うが、小学生は感受性が強いので、映像を見るだけよりも、清掃工場の職員とオンライン授業を行うなど、コミュニケーションしながらの学習も良いと思うので検討していただきたい。</p>
環境局長	<p>時間的なマッチングもあろうかと思うが、各学校の要望等を聞きながら、出来る限り対応していきたい。</p>
齋藤敦子委員	<p>学校のことが話題になったので関連してお話させていただく。見学は非常に学習効果が高い活動であり、実際に4年生が清掃工場で見学することは、子供たちにとってとても効果が高いものであるが、コロナ禍で見学は控えざるを得ない状況である。</p> <p>その一方、コロナ禍になって一人一端末が配備され、子供たちが端末を使った調べ学習をほぼ毎日行っている。現在は、インターネットの社会と子供たち一人一人がつながることができるようになっており、インターネットを介した配信などを提供いただけると、学習効果が高いと思う。</p>
藤田委員	<p>広報の方法は、一般的な市民に広く周知することも重要だが、どのような層の方がどのようなごみを多く出すのか、その人にどのような働きかけをしたらよいのかを考え、ターゲットを絞って周知す</p>



	<p>ることも重要ではないか。</p> <p>例えば、スライド9に示す「せんだい食品ロス削減ガイドブック」は、とても良いと思ったが、実際に見たことがない。実際に食品を買って料理をする方に届くよう、スーパーマーケット等の食品売り場にガイドブックがあれば、活用してもらえと思う。</p> <p>また、家庭ごみの組成では紙類の割合が高く、その中でも雑がみが多いと推測できる。雑がみの中でもダイレクトメールやポスティングチラシが毎回たまってごみ箱に入れているなら、その中に「この紙は雑がみとしてリサイクルされます」と表記するなどの案内や働きかけがあると良いと思う。一般的な周知だけではなく、ターゲットを絞った効果的な広報ができると削減につながるので検討いただきたい。</p>
<p>廃棄物事業部長</p>	<p>ターゲットを絞った周知広報というのは非常に重要と認識している。</p> <p>例えば、スライド20でご説明したとおり、外国人向けや転入者向けの広報については、仙台市のルールを知らない方が多いということで、重点的に啓発を行っている。</p> <p>食品ロス削減においても、前提として組成分析する中で、誰がどのようなごみを出しているのかの分析も重要である。「食品ロス削減ガイドブック」については部数に限りもあり、どこにどのように置いていけるか課題もあるが、分析して、ターゲットを絞って広報に取り組んでいきたいと考えている。</p>
<p>久田会長</p>	<p>情報発信や啓発活動に関するご意見が多い。発信ツールについては新しいものもたくさんあり、今後もより有効で実効性の高い取り組みがでると思うので、柔軟に考えていただければと思う。</p>
<p>遠藤委員</p>	<p>スライド12の家庭系剪定枝リサイクル事業について、剪定枝の排出状況、収集からチップ化されるまでの写真はとても伝わりやすいが、チップ化後の利活用の写真がない。剪定枝が自分の身近なものにどう変わったのか、何が循環しているのかが見えると、当事者性が増して感じられると思う。</p> <p>また、循環したものを活用している方がいなければ資源は循環しないので、活用している方々を積極的に発信し、活用していただいている方が注目を浴びるような取り組みをしていただけると良いと思う。</p> <p>このような剪定枝のリサイクル事業を構築し、運営することは大事だが、「こういう使い方が環境にも良いし、自分たちの暮らしも楽しいし、クリエイティブな生活だよ」といった雰囲気を高めて</p>

<p>廃棄物事業部長</p>	<p>いくことも大事だと思う。新しい仙台市基本計画では、The Greenest City ということで、さらに「杜の都」を高めていく理念を掲げており、このような緑のリサイクルが杜の都仙台のブランド化にも寄与すると考えている。</p> <p>また、以前食品ロス削減の取り組みに協力した時に、高齢になると食べる量が減るので、食べ残しや生ごみは減っていくという結果があった。家庭にどのようにアプローチするかは知恵を出していると思うが、見学会などはリアリティがあって良いが、まじめなアプローチなので、同じ仕組みの中で楽しみや遊びの観点からアプローチすると良いと思う。</p> <p>緑のリサイクルについて、リサイクル全体が見えることが重要とのご意見であるが、これまではどうしても、分別して出していた点が多く広報の重点となっており、利活用の部分がなかなか見えにくいところがあった。しかしながら、資源循環都市を掲げていることを踏まえれば、利活用の部分を含め、リサイクル全体でどうなっているのかを見せていくことが重要と考えている。この点は、プラスチックのリサイクルについても同様と考えており、全体を理解いただきながら、さらなるリサイクルを進めてまいりたい。</p> <p>また、広報の工夫に関するご意見については、施設見学や食品ロス削減ガイドブックはどちらかといえばまじめなアプローチである。遊びの要素という点では、例えば先ほどご紹介したPTAフェスティバルのような子供たちが参加するイベントでは、射的のようなゲームから興味を持ってもらう事例もある。今後進める中で、ターゲットとなる方の属性に合わせて、広報を工夫してまいりたい。</p>
<p>久田会長</p>	<p>前回の審議会までは、新たな一般廃棄物処理基本計画の策定に向けた議論を行ってきたが、今回は、計画を実行に移す初年度の取り組みについての議論となるため、計画に記載した内容が適切に運用されるかが重要である。</p> <p>計画の基本的な考え方で「杜の都の資源」というキーワードがあり、資源循環都市を目指していくことから、すでに仙台市は、基本的なスタンスとして、減らすだけではないということを宣言していると考えたほうが良い。むしろ無駄は減らして、資源性のあるものを徹底的に有効活用していく基本的な考え方に則って進めていくのが良いと思う。</p> <p>その中で、フードドライブは重要な取り組みだが、これを廃棄物部局から発信することは、受け取る側がどう思うのか気になった。やはり食べ物なので、対外的なイメージを考えながら、市役所内で連携して取り組まれたら良いと思う。百貨店協会やチェーンストア</p>

	<p>協会との連携も十分考えられるので、廃棄物ではなく食べ物を有効活用するという意識で運用することが重要だと思う。</p> <p>情報発信については、市民が参画・協力することで、自分たちが市にどういった貢献をしているのか、国際的な SDGs に仙台市がどう貢献するのか的確に発信するのが良いと思う。また、どのように資源が循環しているのか、資源の有効活用がどのように皆の役に立っているのか発信していくことが重要だと思う。</p> <p>環境美化の点では、今朝もごみ集積所のネットからごみ袋がはみ出てカラスにつつかれている光景を見た。当日の早朝に出すルールの徹底や、ネットの中にきちんと出すなど、一人ひとりのちょっとした気遣いで避けられると思う。</p> <p>最後に、安定的な処理体制の確保では、松森工場の基幹改良工事について説明があった。老朽化した施設の延命化とあるが、老朽化したものを長寿命化するだけでなく、未来志向の施設の在り方についての考えもあると思う。また、焼却処理に伴う発電及び売電については、行政サービスの向上であるとか、税金アップ抑制であるとか、様々ところに波及する攻めの行政であると思う。能動的な行政につながる施設の更新という意味では、理屈がたつのではないかと思う。</p> <p>今回、非常に多岐にわたって施策を説明いただいた。今後、実効性の検証もすることになるが、本日、委員の皆さまからあった意見を参考に、部署内で対応すること、他部署と連携すること、様々な業界との連携もあるので、柔軟かつ幅広くに対応いただきたい。</p> <p>本日の審議会におけるご意見のポイントは、市民の方々の取り組みの見える化、しっかり分析し、しっかりお伝えすること、それを市民の皆さんがご覧になり、さらに能動的に取り組んでいくという意味での循環が大事であると感じた。なかなか効果分析が蓄積できていないところがあり、全体の部分がわかりづらいところがあるが、現状の分析なくして、有効な手立てが講じられないということはその通りであるため、できる限り現状と効果の分析を行ったうえで、取り組んでまいりたい。</p>
環境局長	
久田会長	<p>よろしくお願ひしたい。</p> <p>続いて、議事次第の「その他」について、質問や意見があればお願ひしたい。</p> <p>なければ、議事報告事項としては以上である。事務局から連絡等があればお願ひしたい。</p>

<p>司会（企画係長）</p> <p>久田会長</p>	<p>次回審議会の開催については未定である。日程等が決まり次第連絡する。</p> <p>それでは、本日の審議は以上である。円滑な議事運営に協力いただき感謝する。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
-----------------------------	---